天文ハイキング〔XI〕

川越の「時の鐘」

6 月半ば川越の「時の鐘」探訪を計画する．折しも梅雨．連日降りみ降らずみの天候が続き，第一回目は朝からの雨で中止．急遽翌週に変更，同行5名当日はどうやら天気も持ちこたえて，時の鐘をはじめとする小江戸川越の古跡ハイクを楽しむことができた．

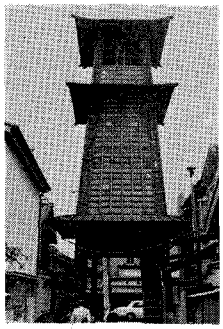
時の鐘とはいわゆる報時の鐘で，江戸をはじめ各地の城下町などに造られ今もそのうちの幾つかが残っているという．しかしながら写真で見る限りではそれらの鐘は鐘楼形式が大部分で，鐘櫓の川越の時の鐘は断然ユニークな存在である．

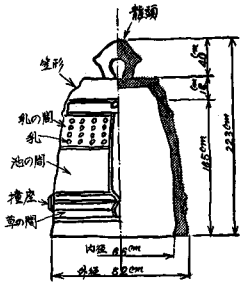
川越の時の鐘は城主酒井侯が寛永年間（1624～44）に建てたのが最初だと言われる．当時鐘のあった場所は常蓮寺という寺の境内で，川越町分十ケ町の中心にあり，釣合いよく鐘の音が聞えたという．江戸時代鐘突免と呼ばれた田畑が松郷と野田に二反二畝四歩ほどあり，ここの米麦の収穫と，町分十ケ町から毎月一戸八文ずつ取り立てた計六貫四百文余りとで，鐘突き番2人を雇って鐘を突かせたという．現在は小さな薬師神社の入口にありその門のような形になっている．

鐘楼の高さは五丈三尺五寸（約 16m2）古びた黒い下見板の櫓はいかにも時代を想わせる．この櫓も鐘も江戸時代を通じて何度か造りかえられ，現在の物は明治 26 年の川越の大火後翌 27 年 8 月に再建されたという．

時の鐘は現在も日に 4 回午前 6 時，正午，午後 3 時，午後 6 時に電動装置で自動的に時刻を告げている．我々は 12 時の鐘鳴を聞いたが，12 時 1 分ゆるゆると撞木が引き上げられやがて切り離され「ゴーン ～～～」と鳴る．余韻 20 秒，6 回の鐘鳴で終った．

古い歴史を秘めた時の鐘，電動式の鐘突き，私はひなびた鐘の音を聞きながら，ふと時の流れをこの手でつかんだ錯覚にとらわれた．



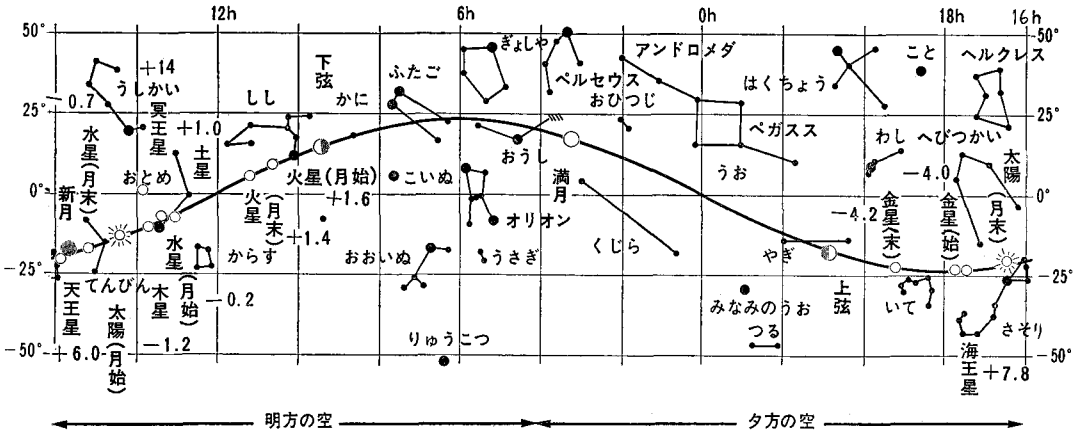


川越「時の鐘」

報時を行うには時刻を定める科学と，それを保持する時計の技術が必要である．これがどのように行われたか，日曜日で市役所の観光課が休みとあって今回は調査できなかった．後日再調査してみたいと思っている．

川越は古い城下町で「小江戸」とも言われ，蔵造りの家並み，川越大師喜多院とその五百羅漢等々見るべき物が多い．時の鐘は西武新宿線の終点本川越から徒歩約 10 分，1～2 度聞けば道に迷うことはない．（原田光次郎）

◇ 11 月 の 天 文 暦 ◇

日	時	記	事
3	13	水　星	西方最大離角
5	10	**上　弦**	
7	21	立　冬	（太陽黄経 225°）
11	11	金　星	東方最大離角
12	7	**望**	
12	20	月	最近
18	24	**下　弦**	
22	19	小　雪	（太陽黄経 240°）
23	4	天王星	合
26	24	**朔**	
27	6	月	最遠

◇ 11月の日月惑星運行図 ◇